

レタスの作型別発生病害と診断法

(園試 環境部)

1 背景とねらい

レタス栽培は長期継続出荷するために、様々な作型で栽培されているが、作型によっては生産がきわめて不安定となっている。この原因の一つに、多種類の病害が発生するが、これに対応した的確な防除が行われていないことがあげられる。そこで作型別に発生病害の種類を明らかにし病害の診断法をとりまとめたので、防除指導上の参考に供する。

2 技術の内容

1) 作型別発生病害

作型	灰色かび病	菌核病	すそ枯病	べと病	斑点病	褐斑病	軟腐病	腐敗病	斑点細菌病
初夏どり	△	△	△	—	—	—	△	—	—
夏どり	△	△	○	△	—	—	○	△	—
初秋どり	△	—	△	○	△	△	△	○	○

○ 多発病害 △ 発生病害 — 無発生

2) 診断法

外葉部に斑点状病斑

- 病斑の大きさ やや大
- 裏面に白いかび ---- べと病
- 黒褐色だ円形病斑 ---- 褐斑病
- 病斑上に小黑粒 ---- 斑点病
- 病斑の大きさ 小
- 葉肉が腫くなる ---- 斑点細菌病

結球部の腐敗

- かびの発生
- 灰褐色のかびが密生 ---- 灰色かび病
- ネズミ糞状の黒色菌核 ---- 菌核病
- くもの巣状のかび ---- すそ枯病
- かびの発生はみられない
- 軟化腐敗、茎のずい部など ---- 軟腐病
- 結球内部も褐色不整形病斑 ---- 腐敗病

3. 指導上の留意事項

- 1) 外葉部に斑点状病斑を形成する病害はいずれも多発すると結球部にも発生し、大きな被害を与えることがある。しかし、結球部だけが発病することはないので、診断は外葉部で判断する。
- 2) 結球部を腐敗させる病害はいずれも地際部から発病することが多いので、初期の発病状況は地際部を注意して観察する。
- 3) 実際には複数の病害が併発することがあるので、病徴をよく観察するとともに、調査個体数を多くして判断する。一般にすそ枯病と軟腐病の関係やべと病と斑点細菌病のように発生時期と発生部位が重なりやすい場合、併発することが多い。
- 4) すそ枯病は菌糸や菌核で診断するが、菌糸は表面に薄くはりついていることがあるので見のがすことがある。また、結球部が腐敗しない場合でも中肋部に褐色のさび状病斑を形成し、商品価値をなくすことがある。
- 5) 腐敗病の病原は3種類の細菌が知られているが、初秋どりでは、シュードモナス・チコリによってひきおこされる。本菌は長野県において褐色腐敗症とかタール病と呼ばれている病害であり、警戒を要する。
- 6) 岩手県において発生を確認した病害は9種であるが、このほかにも多くの病害が知られて

おり今後新たに発生する可能性がある。この場合、正確な診断が必要となる。

7) 発生生態の解明や防除体系について検討中であるが、レタス病害の多くは収穫期に多発するので、結球初期からス〜3回防除薬剤を予防的に散布し防除する。なお、薬剤は防除基準に準じて使用する。

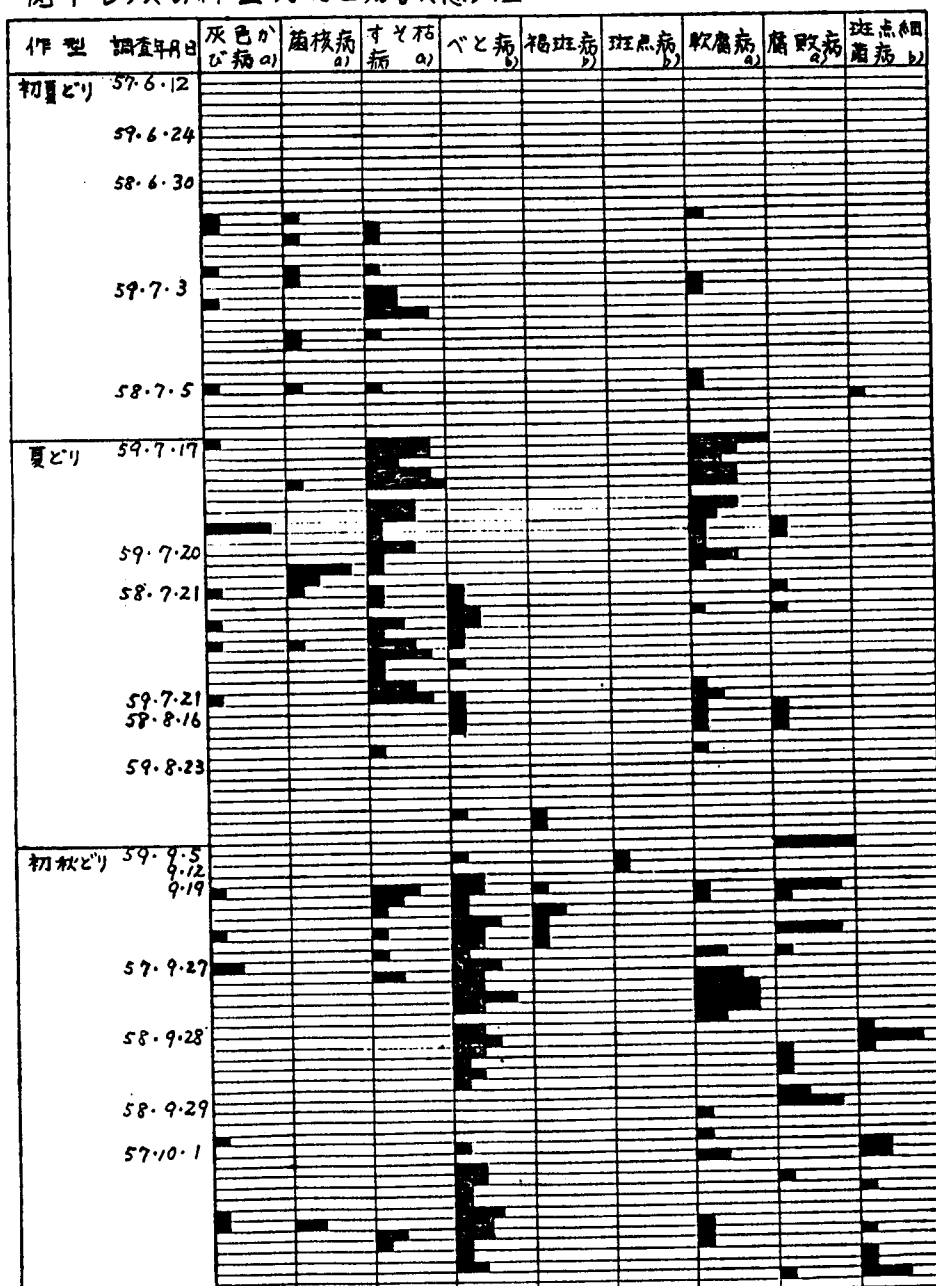
4 参考文献、資料

昭和57, 58, (59)年度ヤマセ地域農業開発プロジェクト研究成績概要 ()は予定

昭和57, 58, (59)年度岩手県園芸試験場成績書 園芸作物の病害虫に関する試験成績

5 試験成績

図1 レタスの作型別発生病害実態調査



■ 腐敗株率 ~5%, 発生度~25, ■ 5~10%, 25~50 a) 腐敗株率
 ■ 10~20%, 50~75 ■ 20~40%, 75~90 ■ 40%, 90~ b) 発生度